

「 私たちがすべきこと 」

広島県 府中町立府中中学校 3年 ^{いしだ ひな} 石田 陽菜

7月6日、西日本の各地でこれまでに経験したことのないような大雨が降った。広島には特別警報が出され、避難指示や避難勧告が出された地域もあった。私の住む府中町でも1日中激しい雨が降り続いた。川の水かさも増し、ものすごい濁流だった。しかし、川の水の勢いで道路が何箇所か陥没した以外は、私の周りで大きな被害はなかった。

通学路の安全確認ができ、7月10日に学校登校した。7月10日は晴れていて、川の水は普段と同じくらいにまで減ってきていた。この日は期末テストが行われた。1時間目、2時間目のテストは無事終わり、3時間目のテストを受けている途中に先生の携帯の警報音が教室に鳴り響いた。何事かと思ったが、府中町とは関係ないだろうと思った。しかし、窓の外からもサイレンの音がしていることに気がついた。サイレンは絶えず鳴り続いた。いままでこんなにサイレンが鳴ったことは無かったため少し不安に思いながらも問題をとき、3時間目が終わった。休憩中に校内放送が流れ、榎川が決壊したことを知った。朝は何ともなかった榎川が決壊するなんて考えてもみなかったし、何が起こったのかと不思議に思った。しかし、詳しい情報は分からないまま5時間目まで通常通り授業があった。その後体育館に集まり、迎えが来た人から帰ることになった。私は、友達のお母さんと、私の母のいるイオンモールに行った。私の家に帰るには、榎川沿いの道を通らなければいけないのだが、その道が通れなかったらしい。私は榎川の映像を見てとても驚いた。見覚えのある風景が泥まみれになっていたからだ。まさか、府中町で災害が起こるなんて考えたこともなかった。私はこのことから、自分の住む地域でも災害が起こる可能性は十分にあることを理解し、命を守るための行動をとれるようにすることが大切だと知ることができた。また、雨が降って数日たっても土石流が発生することがあると分かり、雨が降り止んだ後でも、すぐに避難できるように準備することが大切だと感じた。

災害のあった日から1週間学校が休みになり、私は3日間ボランティアに行った。思っていた以上に土砂の量は多く、水を含んだ土砂は重く、作業はとても大変だった。日本では土砂災害が多く、テレビで復旧作業の様子を見たことがあったが、現場に行ってみないと匂いや土砂の重さなどは伝わってこない。今回ボランティアをして、現場は本当に大変だと知ることができた。復旧作業を行う時に中心となって指示を出していたのは、土砂災害の復旧作業を経験したことがある人など復旧作業の手順を知っている人だった。指示のおかげで、土砂を早く撤去すべき所を先に片付けることができ、スムーズに作業ができた。復旧作業に関する知識を身につけておくことは重要だなと感じた。

災害を減らすために何かしたいが、私達には砂防ダムを作ったりすることはできない。しかし、私達にもできる災害への備えがある。

1つ目は、自分の住んでいる地域の危険な所を知ることだ。ハザードマップで自分の住む地域の危険な場所を知ることができる。また、かつて災害が起こった地域には石碑があることも多いので、それも確認するべきだと思う。

2つ目は、土砂災害の前ぶれを知ることだ。前ぶれを知っていればいち早く避難できる。前ぶれにはいろいろなものがあるが、土石流の場合は、川の水が濁り、水と一緒に木が流れてくる、雨が降り続けているのに川の水が減るなどがある。

3つ目は、避難のし方を考えることだ。避難場所はハザードマップで調べることができる。家族全員で避難場所や通る道の確認をして、大雨の時でも安全に避難できるかを考えながら実際に歩くことが大切だ。

災害は日本のどこでも起こり得る。だから、災害を自分のこととして捉えて、防災に関心を持ち、災害が起こった時に自分の命を守る行動をとれるようにすることが必要だ。また、災害が起こった後は、ボランティアに参加するなどして被災者を助けることが必要だと思う。私は、私の住む府中

平成 30 年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞（事務次官賞）

町についてもっと知ろうと思う。また、災害や災害の復旧についても学び、災害が起こってしまったときに役立てたいと思う。